

議長 会議を再開いたします。 (午前 11 時 20 分)

々 これより、中平議員の一般質問を行います。2 番中平議員。

2 番 皆さんおはようございます。2 番中平でございます。6 月の議会の会期中
中平議員 は、新型コロナの感染者数は減少傾向にありましたもので、一般質問において徐々にではありますが、終息に向かっているものと感じられます、と挨拶をいたしました。ところが、その後、第 7 波が訪れ、島根県でも未だに毎日 3 桁の感染者数が発表され、300 人ぐらいの発表の日は今日は少ないねといった会話も聞かれます。川本町でも少数ですが、時々感染者が出ております。

引き続き感染対策を行い、早くかつてのような日常生活を取り戻したいものです。町内の話題になりますが、中学校吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクール島根県大会、小編成の部において、12 年連続で金賞に輝きました。島根中央高校吹奏楽部も同じく金賞を受賞しております。川本スポーツクラブの川本ジュニアバレーボールクラブは、去る 8 月 21 日に行われました、第 46 回ゆめタウンカップ島根県石見部小学生 6 人制バレーボール大会において、17 チームが参加した 4 つのゾーンのうちの 1 つで優勝しまして、見事、他の 3 チームとともに、石見地区代表として県大会出場を決めました。今年 2 度目の県大会出場でございます。県大会は 10 月 16 日に開催されます。実力をいかんなく発揮して頑張ってもらいたいと思います。また、島根中央高校カヌー部は、9 月 8 日から始まった日本カヌースプリントジュニアユースの男子カヤックシングル 1000 メートル、男子カヤックペア 500 メートル、男子カヤックフォア 500 メートルで優勝を果たしました。他の種目でも多数の選手が入賞を果たしております。女子硬式野球部は、全国高等学校女子硬式野球選手権大会において、初のベスト 16 に進出しました。今後は楽しみです。

少し前置きが長くなりましたが、通告書に基づき 2 項目の質問をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

1 項目めは、「中学部活動の地域移行について問う」ものです。少子化の進展で学校単位での部活運営が困難になる中、スポーツ庁と文化庁の有識者会議は、それぞれ 25 年度末までに公立中学校の休日の部活指導を地域に移行する改革を提言しました。2023 年度からの 3 年間ですべての都道府県で、休日指導を外部に委託するよう求めております。その受け皿づくりをどうするか、指導者の確保が喫緊の課題となります。本町での地域移行について、どのようにお考えかを問います。

2 項目めは、「まちづくりにおける e スポーツの活用について問う」ものです。e スポーツは、エレクトロニック・スポーツの略で、コンピューターなどを使った競技性のあるゲームのことです。e スポーツやゲームというと、

2番
中平議員

あまり良い印象がない方もいるかと思われませんが、近年は世界的に広がりを見せていて、日本でも国体の文化プログラムで開催されたり、全国高校eスポーツ選手権が開催されたりしています。それだけではなく、将来はオリンピック種目になる可能性もあるそうです。東京オリンピックでスケートボードが採用され、パリオリンピックではブレイクダンスが採用されましたので、十分可能性があると考えられています。年齢や障がいの有無に関係なく、認知機能の維持や孤立解消のツールとしても注目されています。本町でもeスポーツの任意団体「KEES（キーズ）」が設立されました。川本町eスポーツアンサンブルの頭文字を取った名称です。川本町eスポーツアンサンブルは島根県eスポーツ連合の協力をいただき、7月にeスポーツのイベントを開催しました。大人向けのセミナーも大好評でした。9月8日には、川本あそび中高生企画としてeスポーツイベント at 川本西公民館が開催されます。今後のまちづくりにおいて、eスポーツの活用が有効ではないかと考えておりますが、町としての所見を問うものです。以上、2項目についてお願いします。

議長

それでは、中平議員の質問のうち1項目めの「中学部活動の地域移行について問う」に対する答弁をお願いします。番外宇山教育長。

番外
宇山教育長

中平議員、1項目め、「中学部活動の地域移行について問う」についてお答えいたします。中学校における部活動は、学校教育の一環として、学習指導要領に位置付けられた活動で、体力や技能の向上に資するだけではなく、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会であり、学習意欲の向上や責任感、連帯感を育み、豊かな学校生活を実現する重要な役割を果たしております。このたび文部科学省から、部活動の地域移行という方向性が示された経緯についてご説明いたします。中学校における部活動は、休日の活動を含めて、教員の献身的な勤務によって支えられており、これが長時間勤務の要因であることや、特に指導経験がない教員には多大な負担となっている現状があります。持続可能な部活動と学校の働き方改革の両方を実現するためには、特に休日の部活動における教員の負担軽減を図る必要があります。しかし一方で、休日の部活動に対する生徒の希望に応えるため、休日において部活動を地域の活動として実施できる環境を整えることが重要であり、多忙な教員に代わって地域が支える取り組みを行うことが求められてきたため、部活動改革の一つの方法として、地域移行という方針が示されたものです。具体的には、休日の部活動の段階的な地域移行、スポーツクラブ等の地域団体において、地域部活動の運営を担う人材や指導者を確保することなどが示されております。文部科学省は、令和5年から3年間をかけて段階的に実施することを計画していますが、本町のような中山間地においては、競技種目も指導者も限定的で、地域で休日の活動を担っていくことは、現時点で難しいと考えており、文部科学省も中山間地や離島においては、地域の

番外 宇山教育長	実情に応じた実施としております。島根県教育委員会も検討をしている最中であり、現在のところ地域移行に関する財政支援等の具体的な方向は示されておられません。今後は、その方向性が示され次第、県や学校と協議しながら、本町の生徒に適した部活動のあり方を検討していきたいと考えております。
議 長	再質問ありますか。中平議員。
2 番 中平議員	現状の川本中学校の部活動の内容について、お聞きしたいと思います。
議 長	番外坂根教育課長。
番外坂根教 育課長	川本中学校の部活動、現在4つございます。陸上部、ここに12名、野球部に12名、バレー部9名。吹奏楽部23名でございます。それぞれに顧問、副顧問就いておりまして、そういった体制で部活動をしております。
議 長	再質問ありますか。中平議員。
2 番 中平議員	部活動の地域移行についてですね、競技がまだ県の方からなくて、していないようなことがありましたが、協議の段階までいってないように見受けられますが、邑南町の方では部活動地域移行検討委員会というものがもうすでに開催されております。各地域から部活動ごとの代表を集めてやっておられます。確か13ぐらいあるというようなことでした。県の方から示されてないとはいえ、川本中学だけのことで、できるだけ早い段階で協議を始めて欲しいと思いますがいかがでしょうか。
議 長	番外宇山教育長。
番外 宇山教育長	先ほどの答弁の方で申し上げましたが、地域の実情というものが、かなり大きなものだというふうに考えております。地域移行につきましてかなり前から本町の川本中学校の校長とは協議をしておりますが、実際に動き出す上においても、やはり県の方針とか細かいことは決まらなとなかなか次のステップにはいけないだろうという方針で、その指示を今待っている状況でございます。
議 長	再質問ありますか。中平議員。
2 番 中平議員	答弁の中にもございました地域のスポーツクラブに委任するという案が国から示されております。これについてはどうお考えでしょうか。
議 長	番外宇山教育長。

番外
宇山教育長 本町には、川本町体育協会、それからスポーツクラブと運動を主にやっている団体がございます。例えばスポーツクラブがそれを担うとしても、子どもたちの命を守る、守らなければならない活動となっております。ただ単に、技術だけを教えればいいという活動ではないというふうに考えます。やはり指導者の養成、資質の向上というのは必須だと考えております。その辺のところは、県のスポーツ協会の方も考えて、指導者の育成というふうな面で考えておられるというふうには聞いております。やはりその辺の制度が整った時点で動かないといけないですし、スポーツクラブもそのような活動を担っていけるかということは、クラブとして考えていかないとけないかなという問題であると思っております。以上です。

議 長 再質問ありますか。中平議員。

2番
中平議員 少子化の影響についてですが、県内の中学校では野球など選手不足で、チームが組めない学校が出ております。高校野球でも今年の秋季大会に隠岐高校・江津高校・浜田水産の3チームが、部員不足のため不参加となっております。そこで一つの進言がありましたのが合同部活動の推進と言われてますが、他町村との合同部活動という考えはどうでしょうか。

議 長 番外宇山教育長。

番外
宇山教育長 やはり団体で行うスポーツについては、部員数というのが非常に重要となっております。本町の部活動におきましても、野球部・バレー部において、実際に部員がたくさんおるという状況ではございません。次の年には、チームが組めなくなるという状況は、本当すぐそこにきてるというふうに考えております。本町の野球の方での事例を申し上げますと、その辺の地域での活動ということ想定して土日に郡内の野球の経験者、郡内の部活動に入っている子どもたち集めて、合同練習会というのを積極的に行っております。やはりこれも、今後の地域移行ということを考えながらの動きでございます。その辺の動きの後押しをしていきたいというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。中平議員。

2番
中平議員 いろいろ読んでみますと出てくるんですが、先生の中にですね、部活の指導がしたくて教師になったというような方も、かなりおられるように校長先生の方からお話を聞いておりますが、その扱いはどうなりますか。この移行後ですけども。

議 長 番外宇山教育長。

番外
宇山教育長 学校の教員は兼業が許されておりません。島根県の場合は、その兼業が解
かれないと、やはり土日の活動というのは非常に難しいのかなというふうに
思っております。それはやはり島根県の教育委員会の方が、兼業はOKだよ
ということが示されないと難しい問題だと思います。近隣で言うと鳥取県な
どはもう兼業ができるようにというふうになっております。以上です。

議 長 再質問ありますか。中平議員。

2番
中平議員 他の自治体では兼業も許されているところが出ておるということですよ
で、島根県でも、やはりやりたい先生が、指導ができなくなるようなことが
ないように、ぜひ働きかけをしていただきたいと思います。将来ですね、平
日も地域移行に移行するんだというようなことが書いてありましたが、その
点についてはどうお考えでしょうか。

議 長 番外宇山教育長。

番外
宇山教育長 学校の働き方、教員の皆さんの働き方改革等を考える上で、やはり生徒一
人一人に寄り添う時間というのが少なくなっている状況はあります。やはり、
平日の部活等をやることによって、やはりそれもその時間も削られているの
だろうというふうに考えております。すぐすぐにはいかないと思いますが、
やはり学校で行う部活動というのは、もうすでに限界がきている状況ではな
いかなというふうに個人的には感じております。いずれ部活動については、
社会体育の方で担っていくべきではないかというふうな個人的な思いはあり
ますが、やはり先ほど言いました指導者の資質の問題とか、いろんな制度の
問題がまだまだありますので、すぐすぐにできるものではないと考えており
ます。

議 長 再質問ありますか。中平議員。

2番
中平議員 部活動を考える上でですね、そもそも休日は休みにする部活もあっても良
いんじゃないかという意見もございますが、その点についてはどうお考えで
しょうか。

議 長 番外宇山教育長。

番外
宇山教育長 これも先日、中国地区の教育長会の方で文部科学省の方とお話をする機会
がありました。今回、土日の部活動をどうするかという話が出たわけですが
、実際には、土日は休みにするべきではなかったのかなという考えをして
おられました。なるほどなというふうには思いました。土日は完全に休み
にして、例えば中学校にない部活で川本町でしたら、サッカーをしたいとか、

番外
宇山教育長 卓球をしたいとか、そういう方がそういう生徒がいたら、その活動をしている市や町に行って、土曜日や日曜日は活動できるのではないかなというふうに思います。そうすると、意外にやりやすくなってくるとはのではないかなというふうに考えます。まだまだ、これからいろいろ考えなければいけない問題がありますけど、土日の、個人的にも土日は休みしてもいいのかなというふうに、休みにすれば子ども活動は逆に広がっていくのではないかなというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。中平議員。

2番
中平議員 単純に休日は休みにする部活があってもいいのではという記事を見たわけですが、そこまで具体的なことは全く書いてございませんでしたので、大変参考になりました。私もある程度その意見の方に共感する部分があります。それからですね、今の平日も地域移行をする場合の指導者の確保についてですが、現在川本スポーツクラブ、これを指導に関わっている指導者に役場の職員の方がたくさんおられます。それではですね、邑南町が10月から導入されました、フレックスタイムの導入ですね、これが今すぐということは絶対にないんですが、こういう指導者、平日のことが出るようになったら、やっぱりそのねらいが柔軟な働き方を可能として、家庭の介護や育児の他、自治会などの地域運営組織への参加を後押しするというねらいでできた制度です。こういうところのこともちょっと頭の中に入れておく必要があるのではないのかなと思います。まだですね、他の自治体では伊藤課長から少し答弁がありました、部活動に従事する会計年度任用職員の採用であるとか、地域おこし協力隊の募集もあるようでございます。そこも一つ視野に入れてはどうかと思います。ここでですね、地域移行はなかなか難しいということですが、やっていかなければいけないのは間違いありません。いろいろ課題はたくさんありますが、文科省も80億の概算予算を要求して、この3年間で移行するための人材バンクの設置とか、指導者養成のための講習会とか、そういうものに補助をすと言ってます。前へ進めていかないといけないと思います。ここで、山陰中央新報ですけれども、これの「こだま欄」に寄せられた中学生の声がありますので、少し紹介させていただきます。「部活動スポーツクラブに移行すれば指導者が多く、いろいろなプレーの仕方が身につくよさがあるが、練習場への移手段や金銭面でどうなるかの課題がある。もう1人は部活動の地域移行について、地域のスポーツクラブに任せたい。理由の一つは先生方の負担が増えているからである。受け持った部活動が経験したことのある部活動なら、ルールや指導方法がわかっているからよいが、経験したことのない部活動は分からないことが多くて大変である。また地域の方が指導者だと、顔なじみの知り合いが多く親近感が湧きやすいし、学校のことにとらわれることなく指導できるのではないかな。ただ、地元はその競技の指導者がいるかどうか、クラブ参加にかかる費用の問題は

2番
中平議員 どうなのか、課題点は多くある。」。もう一つの意見は反対意見ですが、「部活動を続けるべきである。家の事情でスポーツクラブに入れない人がたくさんいるはずである。運動競技の種類を絞って、先生の負担を少なくすればよい。最近は運動不足の人が多いという課題もあるので、各学校で、誰もが入部しやすい部活動の仕組みをこれからも続けて欲しい。」、このようにいろんな意見が出てます。まだまだ他にもありましたが、これだけにさせてもらいますけども。最後になりますが、この地域移行のやり方にとどまらずですね、部活動はどうあるべきか、広い視野で地域や学校ぐるみで見つめ直す、話し合う良い機会にして、部活動を川本町の子どもたちにとってより良いものにして欲しいと思います。これで一つ目の質問を終わります。

議長 以上で、1項目めの「中学部活動の地域移行について問う」の質問を終了します。

々 次に、2項目めの「まちづくりにおけるeスポーツの活用について問う」に対する答弁をお願いします。番外坂根教育課長。

番外坂根教育課長 中平議員ご質問の2項目め、「まちづくりにおけるeスポーツの活用について問う」にお答えします。コンピューターゲームやオンラインによる対戦型のゲームは古くからありますが、eスポーツという言葉が使われ始めたのは、2000年代に入ってからと言われており、インターネットの普及によって、あらゆる場所から参加することができるeスポーツは、若い世代を中心に世界中で人気が高まっています。こうした盛り上がり背景に、自治体として、地域活性化を目的としたeスポーツのイベントを実施する事例も増えていると認識しております。本町では、今年7月に三原まちづくりセンターで開催した三原まちセンマルシェにおいて、一般社団法人島根県eスポーツ連合と、本町の任意団体組織とが協働でブース出展し、企業や自治体、シニア向けのセミナーと体験会などを実施され、延べ118名の来場がありました。また、今月18日には、本町の中高生の活動団体あそラボが企画する、eスポーツの楽しさを体験できるイベントが、川本西公民館で実施される予定です。このように、eスポーツに関する活動は、町内でも見受けられますが、現在は自治体が主となる取り組みではなく、任意の団体が独自の活動として取り組まれている状況です。eスポーツが注目され、競技人口が増加している要因として、娯楽性や競技性だけでなく、年齢や性別に関係なく、幅広い層の人々が参加し楽しむことができるという点、またeスポーツには認知症予防などの効果があるとされ、高齢者を対象とした関連事業が全国の自治体で広がりを見せていることなど、多くの可能性を持っていると考えられます。本町における今後の世代間交流や、高齢者福祉の視点において、他の自治体の取り組みなどを注視しながら研究してまいりたいと考えております。

議 長 再質問ありますか。中平議員。

2番
中平議員 まずですね冒頭に言いました、川本町eスポーツ連盟の行動していきたい柱というものがございます。これをちょっと紹介させていただきます。まず、eスポーツのできるスペースの作成、これはゲーム以外にもオンラインでの交流・レクチャー、または学生指導のイベントをする目的で、こういうものが欲しいということです。2番目に、ゲームプログラミング教室というものを掲げてまして、プログラミングを完成させたらゲームができる。習得したら、アレンジとして川本や地域の写真なども入れてオリジナルのゲームを作成するといった、内容的には、J a v aプログラミングとってちょっと専門のところになりますが、こういうものを目指しております。3番目に、デジタルデバイド問題、これに関わる問題でシニアに向けて、スマホやパソコン教室をeスポーツと絡めて開催する。この3点をゴールとして目指しております。この関わりを持つための初めの一步として、ゲームから推進していきたいというふうな考えのようです。このeスポーツに関しましては、かなり関連ある事項が各課に及びますので、今後の取り組みについて考えられることを少しお聞きしたいと思います。まず、I C Tスキルを向上させる価値があると言われております。I Tやインターネットを使いこなすことで、授業では伝えられない教育をeスポーツを通して行うことができるとされておりますが、この点について教育委員会の方の見解はどうでしょうか。

議 長 番外坂根教育課長。

番外坂根教
育課長 競技の性質上、I C Tスキルの向上が見込まれるということは間違いのないものと思います。eスポーツの普及拡大に取り組むとすれば、学校教育というよりもむしろ社会教育の分野かと思っておりますが、そうした取り組みが、さらに、社会教育の分野の取り組みが、学校教育の方に良い影響を与えるということも考えられますので、良いことかなというふうに思っております。

議 長 再質問ありますか。中平議員。

2番
中平議員 このeスポーツは競技ですので、当然大会を開催すると、今現在では多くの来場者で盛り上がるが見込まれております。これは、交流人口の拡大に繋がるのではないかと思います。来場者の宿泊であるとか、S N Sなどによる拡散効果ですね、あと町のP R、飲食などによる消費等が見込めると思われま。鳥取県eスポーツ協会では、観光に絡めて旅館の宴会場でゲームイベントを開催して、注目を集めておりました。これに関しては産業振興課になると思いますが、何か考えがございませうでしょうか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 eスポーツがですね普及いたしまして、こういった機運が高まれば、当然大会の開催もあるのではないかと考えております。宿泊とか飲食とか様々なですね、町についてもメリットがあると思いますので、先般行われました会館の方で行われました神楽大会にも、観光協会の方が後援として参加もしておりますので、こういった形で関係団体と連携してですね、可能性はあるのかなというふうに感じております。

議長 再質問ありますか。中平議員。

2番 中平議員 医療や福祉業界で注目されていることがございます、高齢者の認知機能の向上に効果があるとされております。島根大学では今月からですね、高齢者の健康づくりに筋力トレーニング取り入れたeスポーツが活用できないか、実証実験を始めるようでございます。性別や年齢、障がいの有る無しに関係なく取り組めることがメリットであり、世代間での交流もできるというメリットがございます。悠湯プラザですね、悠湯プラザの事業やサロンなど、こういったもので利用できないと考えておりますが、健康福祉課の方の見解どうでしょうか。

議長 番外櫻本健康福祉課長。

番外櫻本健康福祉課長 失礼します。今、このeスポーツの普及によりまして、全国的にもですね、介護予防の現場或いは認知症予防の現場、そういったところで、こういったeスポーツ、或いはゲーム、そういったものを活用した事例も多く見受けられるようになっております。例えばですね、リズム運動のその器具を利用して、認知症機能低下の予防に役立ったとかいうようなことも、目にしております。議員おっしゃられるようにですね、今後、介護予防関係で言いますと、悠湯プラザさんの事業、或いはサロンの事業があります。そこを利用される方の皆さんの意見等もお聞きしながらですね、そして他自治体の事例も見ながら、検討してまいりたいというふうに考えております。

議長 再質問ありますか。中平議員。

2番 中平議員 すでに老人福祉施設あたりには、皆さんよくご存知の太鼓の達人とかいうようなものが利用されておるので、ぜひ今後いろんな、まだ他にソフトたくさんございますので検討していただきたいと思います。島根中央高校にですね、eスポーツ部ができないかという、ちょっと議論を聞いておりますが、現在の状況どうでしょうか。

議長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

現在の状況でございます。近年のところでは、まず生徒の方から、それからPTAの方からですね、eスポーツ部の要望といいますか面白いんじゃないか、どうだろうかという話は上がっておりました。ただなかなか先ほど部活動の議論も、これ小中だったかと思えますけども、中学校だったかと思えますけどありましたが、高校の方でも同様に部活動を簡単に増やしていくということは、今、難しい状況にあります。その中でもやはり、生徒の要望に応えることができないかというところで、議員の方からお話あった川本の中のキーズさんですか、このあたりにもですねサポートいただきながら、今地域でイベントと一緒にやらせていただいたり、あそラボ、オレンジの方でも、若干そういった活動ができるような状況を作っているということでございます。また先日、島根県の方からですね、デジタルデバイド対策をですね、高校生、中央高校のそういった動きもですね察知されまして、できないだろうかというような打診もありましたので、すぐに部活ということにはなりません、地域と一緒にeスポーツというところを高校生も取り組んでいきたいという、そういった状況でございます。

議 長

再質問ありますか。中平議員。

2 番
中平議員

島根中央高校にeスポーツ部という議論があったというのを聞いておりました、校長先生の方にちょっとお話聞きましたが、先ほど伊藤課長から答弁があったとおり、部活を減そう（＝減らそう）という風潮の時に創設するところ、まだ反対意見のある先生方もおられたり、そもそもゲームというところに抵抗がある先生もおられるようでございますが、校長先生は前向きに進めていきたいという決意を持っておられました。はい。それですねちょっと紹介ですが、現在eスポーツのある学校なんです、島根県立情報科学高校、立正大湘南高校、島根県立吉賀高校、今年ですね益田東高校にeスポーツ部ができて、来年の生徒募集にもものすごくPRに使っておられます。それで2019年にソニー生命が行いました中・高生が思い描く将来の意識調査というものがございました。ちょっとご紹介させていただきます。これサンプル数1000人、そのうちの中学生200人、高校生800人のうちですけども、男子中学生100人について、将来思い描く意識調査のなりたい職業ですね、これ1位がユーチューバーなどの動画投稿者。2位がプロeスポーツプレイヤー。3位がゲームクリエイター。4位がITエンジニアプログラマーというふうになっております。他の調査のものは、まだ見ておりませんが、概ね変わらないのかなというような気がしております。高校のeスポーツ部はですね、仲間と同じ目標を掲げて切磋琢磨する経験が、コミュニケーション能力や人間力の向上に繋がるとされており、第3回全国高校eスポーツ選手権からは、文部科学省の後援を受けております。高校にもし、これができますと、eスポーツ部の高校生が地域に関わることでですね、スマホとかタブレットの使い方などを高齢者等に教える場面等も想定できる

2番
中平議員

とっておりますので、しっかりした議論の中で検討、しっかりした議論をしていただきたいと思います。それで、先ほど紹介がありました7月にありましたeスポーツイベントで、ちょっと寄せられた声を紹介したいと思います。これは高齢者の認知症の予防に関わることなんですが、「高齢者はパソコンやスマホを使いこなせず困ってる人が多い。高齢者はスマホで買い物するのも怖いと感じるので、Jコインが普及しないのはそういうところが原因だと思う。業者が幾ら安全ですよと言っても不信感を持ってしまいが、近い人に教えてもらえると、不安はかなり少なくなる。eスポーツの流れで、そういう部分もフォローできたらいいと考えている。」、こういう声が寄せられております。またですね、eスポーツを楽しむ人の中心ですけども、20代、30代でございます、結婚を考え始める年齢でございます。女性の愛好家が40%を占めるというデータもございまして、共通の趣味であるeスポーツをきっかけとした婚活イベントなどを企画するなど、結婚したい男女の出会いの場づくりにも貢献されるとされております。以上、本日の答弁でも分かると思いますが、eスポーツに関しましては様々なことに関わりがございます。それでこの本町にしても所管がはっきりしていません。群馬県の方では、eスポーツ新コンテンツ創出課を設置して誘致に力を入れておりますし、茨城県では、茨城eスポーツ産業創造プロジェクトとして取り扱っておられます。川本町でも新たなプロジェクト、或いは各課の橋渡し役が必要である場合、やっぱり部活動の地域移行同様ですね、会計年度任用職員とか地域おこし協力隊の活用、そういったものも検討する必要が出てくるのではないかと考えます。最後になりますけども、本町でもeスポーツを様々なことに波及させて、まちづくりに活用するべきと考えますが、町長の所見はどうでしょうか。

議 長

番外野坂町長。

番外
野坂町長

ただいまの議員のご質問、それから各関係課長がですね、関わる課長が多様に渡ったということからですね、取り組みというのはですね、非常にまた時代を沿ってそれにわたって見渡しますとですね、或いは、さらに町が抱える課題解決にも繋がる、それも多様な解決手法があるということで、非常に興味深い取り組みであると思っております。実は私もこの7月の三原まちづくりセンターのイベントですね、ちょうど田植えばやしイベントへですね、ちょっと寄って実際やるところまで時間的に行けなくてですね、非常に活気づいたですね、そういう目の当たりにをしております。それにおきましては非常に可能性のある取り組みだというふうに考えております。今後、この取り組みをどのように受けとめていくかということについては研究をしてまいりたいと思います。その事に関してですね、これ先ほど来話題になっております、この普及をしたり企画をしたりですね、或いはその学校にお願いしたときに、学校の中では部活動の数自体ということでそういう議論があ

番外
野坂町長

るとすると、そういう意味では、先ほどから議論になっております地域おこし協力隊を絡めてですね、それを呼び込んでくることを前提にこれを検討してみるとというのが一つの考え方かなという、今日、先ほど来の議論も踏まえて感じたところであります。そういうところも含めてですね、町としての取り組みの方向を今後研究してまいりたいと考えております。

議 長

再質問ありますか。はい、中平議員。

2番
中平議員

前向きな答弁をいただきました。このeスポーツの活用については、多分ですけど、今からあちこちで良い事例がどんどん出てくると思います。それに乗り遅れないようにですね、どんどん活用を前向きに検討していただきたいと思います。以上で質問を終わります。

議 長

以上で、2項目めの「まちづくりにおけるeスポーツの活用について問う」の質問を終了します。

々

これをもちまして、中平議員の一般質問を終了します。

々

ここで暫時休憩します。午後1時ちょうどより会議を再開します。

(午後0時02分)